

地方創生応援税制活用事業の進捗状況等について

1 地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）活用事業（令和 5 年度末時点）の進捗状況（資料 3 - 2）

寄附活用事業の透明性確保の観点から、企業版ふるさと納税活用事業について効果検証を行う。

（令和 5 年度寄附総額 1億1,809万6千500円）

基本目標	関連する総合戦略の基本目標	交付対象事業	総事業費（寄附総額）	事業の検証
①	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	ワーク・ライフ・バランス推進事業	1,386,440 円 (600,000 円)	企業に対しては、秋田市元気な子どものまちづくり企業認定・表彰制度を実施することで、子育て支援への意欲を高めさせることができた。また、市民に対しては、ワーク・ライフ・バランス推進週間中のSNSでの配信や父子向けの家事&育児実践イベントを行うことで、ワーク・ライフ・バランスの推進を働きかけることができた。
②	魅力的で安定したしごとのある場をつくる	ビジネススタートアップ支援事業	10,257,500 円 (500,000 円)	令和 5 年度は延べ 243 回のイベントを開催し、延べ 760 名が参加、10 名が創業した。参加者のニーズに合わせて起業準備者同士の横のつながりを強化することを目的とした起業家成長意見交換会を新たに設けるなど、イベント内容を変更したこと等により参加者アンケートの満足度も高評価であった。
		外国人材受入支援事業	1,606,000 円 (500,000 円)	「秋田市外国人材活用ニーズ・実態調査」を実施し、①市内事業所の外国人材雇用・受入の状況、②行政に対する支援の要望（雇用・受入、日本語でのコミュニケーション、生活環境・住居、雇用環境などに関する支援）について、把握することができた。
③	多様なつながりを築き、秋田市への新しいひとの流れをつくる	まちへの誇りと愛着醸成事業	2,905,771 円 (2,343,000 円)	公式インスタグラム写真展は、JR各駅や高校、イオンモールなど 16 会場で実施し、市民等が主体的に本市の地域資源を発掘・発信する機会創出にも繋がった。また、フォロワー数は 989 人増加し、高校と連携したインスタ投稿には県外からの好意的な反応もあるなど、一定の効果があった。 また、まちへの誇りと愛着醸成パートナー企業との連携については、次年度以降の事業への協力を申し出た企業もあり、今後の連携強化の土台作りにつながったほか、石井露月顕彰全国俳句大会兼秋田市短詩型大会は、表彰作品を広報あきたを活用して周知することで、市民自ら掘り起こした本市の魅力を周知することができた。
		未来創造人材育成・映像プロモーション事業	89,057,000 円 (89,057,000 円)	市内 6 大学から 40 名の学生が参加し、一流のクリエイターとの短編映画制作を通じてまちを知り、このまちで夢に挑戦できる体験をしたことで、まちへの誇りと愛着を育むことができた。 また、若者が活躍する姿を発信することにより、若者が魅力を感じるまちとしてシティプロモーションを推進することができた。
⑤	持続可能な魅力ある地域をつくり、安全安心な暮らしを守る	小規模災害援助事業（令和 5 年 7 月豪雨災害による復旧・復興関連事業）	266,860,000 円 (25,096,500 円)	激甚災害に指定されるなど被害が大きく、床下浸水被害に遭った被災世帯が多数あったことから、給付対象外であった床下浸水世帯にも災害見舞金を給付できるよう制度を改正するなど、生活再建に向けた支援につなげることができた。